



冬虫夏草の歌

牧野 優希

油彩、キャンバス

生活するなかで触れる時季特有の風や土の匂い、光や温度など、外界への観察から得たことを、その時読んでいた本や聴いた音楽から感じたことを交えて表現しています。

この作品は、様々な季節を経るなかで大地が湧き立ち、生き物が歌う様子を思い浮かべ描きました。

また絵の具を載せたときの形、色彩、現象から生命の営みが繰り広げられる冬虫夏草のイメージが生まれ、タイトルにしました。